

現場で活躍する地域の指導者と連携した普及活動の強化



各地域に交通安全教育を定着させるためには、現場で活躍する指導者の力が不可欠です。Hondaの考え方に賛同いただいた行政・警察・関連団体の関係者、交通指導員*、学校の先生方に対し、Hondaの交通安全教育プログラムや教材、その指導方法を提供するとともに、新たなノウハウの創出に向けた情報交換を積極的に行っています。

*交通指導員=自治体や関係団体等に属し、地域において子どもや中学生・高校生、高齢者に対して交通安全教育を行う職員

地域の指導者が必要とする 新たなノウハウ創出に向けた情報交換の場づくり

Hondaでは、全国5カ所の各製作所内にある地区普及ブロックがHondaの交通安全教育プログラムを活用した指導を実践するとともに研修などを通じて、そのノウハウを地域の指導者に伝えています。

8月に各地区普及ブロックが開催した「交通安全教育プログラム勉強会(以下、勉強会)」では高齢歩行者向けの新たな教育プログラム(P10参照)を発表し、その内容と指導方法について解説しました。また現在、Hondaが開発中の幼児・児童を対象とした新たな教育プログラムの概要(P11参照)も紹介。勉強会では開発の方向性を理解していただいた上で、実際の現場で使用する際の課題などについて話を伺った他、新たなアイデアも出し合っていました。現場で指導を担う方の知識・経験と、Hondaのノウハウを組み合わせることにより、効果的で使いやすいプログラムを開発していきます。そして、ここで得られた意見や要望は今後の開発に活かしていく予定です。

Hondaのノウハウを活用した交通安全教育を実施したいという自治体、警察、団体の方は最寄りの地区普及ブロックにご相談ください。

栃木普及ブロック(栃木県真岡市) TEL:0285-84-7114
埼玉普及ブロック(埼玉県狭山市) TEL:04-2955-5323
浜松普及ブロック(静岡県浜松市) TEL:053-439-2316
鈴鹿普及ブロック(三重県鈴鹿市) TEL:059-370-1553
熊本普及ブロック(熊本県大津町) TEL:096-293-3206



全国5会場で140名が参加した「交通安全教育プログラム勉強会」

地域の指導者による Hondaの教育プログラムの活用

高齢歩行者向けの教育プログラムは勉強会に参加した交通指導員の方々を中心に活用が始まっています。岩手県滝沢市・交通安全教育専門員の方々は、市内の高齢者を対象にした交通安全教室で使用。歩行者とドライバーの各々の目線で道路横断中事故の過程を再現した映像や道路横断シミュレーションを使って、なぜ事故が起きるのか、安全に道路を横断するためにはどうすればいいか、高齢者に理解してもらいました。また、(一財)長野県交通安全教育支援センターの指導員の方々は、交通安全のイベントでの寸劇の中に道路横断シミュレーションを取り入れました。

活用していただいた方々には「道路横断シミュレーションなどで臨場感のある映像を使えるのは、指導する上でたいへん有効」「高齢者の方への説得力があり、自分たちで内容をアレンジできるので使いやすい」と好評です。来年以降、さらに多くの指導者に活用していただけるよう普及拡大をめざしていきます。



岩手県滝沢市・交通安全教育専門員の方々による交通安全教室



(一財)長野県交通安全教育支援センターの指導員の方々による交通安全教室

高校主体による交通安全教育を 実施するためのマニュアル制作を開始

高校生年代は、交通社会の一員としての責任を自覚した行動が求められる時期です。Hondaは生徒自身が交通安全について主体的に考え、自らが交通事故から身を守れるようになるとともに、他の交通参加者への思いやりの心を身につけてほしいという考えのもと、独自に高校生交通安全教育プログラムを2012年に開発しました。それを全国の高校に広げるとともに、各高校が交通安全教育を継続して実施できるための体制づくりもサポートしています。そして今年、活動意志のある高校が自主的に運営できるよう、マニュアルの制作を開始し、現在、試作版を使って検証を重ねています。このマニュアル(DVD)には、高校生の自転車による交通事故の防止を目的とした「実技」「感受性教育※」といったプログラムが収録されています。「実技」では「内容の説明」「デモンストレーション」「実走行」「まとめ」などについて映像を使って解説しています。

群馬県立太田工業高等学校は2013年からHondaの高校生交通安全教育を取り入れています。3年目を迎えた今年、同校の先生方だけで生徒への交通安全教育を実施。マニュアル試作版を活用して自転車の実技と座学を行い、生徒に相手を思いやることや、交通ルールを守ることの大切さを理解してもらいました。同校生徒指導部交通係の中島雅人教諭は「マニュアルによって、指導を担当する教員同士

高校生交通安全教育指導マニュアル 実技



詳細については、指導マニュアルをご覧ください

ここをクリック

「高校生交通安全教育指導マニュアル」



群馬県立太田工業高等学校の先生方による自転車教育

の意思統一がスムーズにできました。実技でのコースの設定や指導の流れ、生徒にアドバイスすべきポイントが明確になっていたため、交通安全指導の経験がない教員にもわかりやすかったと思います」と話しています。今後検証を重ね、今期中の完成をめざし進めていきます。

※感受性教育とは=交通社会人としての責任を自ら考える座学。事故の事例から交通事故の怖さ、周囲への影響、事故に伴う責任の重さについて学び、グループ討議の手法を使い、自分の考え方や行動を見直すことを学ぶ。